

UNION NEWS

<https://www.jrtu.jp>

東海旅客鉄道労働組合

 E-mail sodan@jrtu.or.jp
 東京本部 〒108-0075 東京都港区港南3-9-5
 JR東海品川ビル3階3F (03)6718-1251
 名古屋本部 〒453-0002 名古屋市中村区名駅1-1-13 (052)586-3127

JR東海ユニオン

発行人 尾内 裕昭 / 編集人 鈴木 賢二



交渉のようす

4月27日、「令和4年度期末決算」について経営懇談会を行い、会社と議論を展開した。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、東海道新幹線・在来線ともにご利用が増加した

経営懇談会「令和4年度期末決算」を開催 3年ぶりの黒字化を達成！

ことなどから、通期の運輸収入は、2018年度比で77%と、業績予想72.5%を大きく上回り、連結営業収益は前年と比べ増加した。営業費は当社の物件費やグループ会社における売上原価の増等により増加したが、増収・増益となり、3年ぶりの黒字決算を計上した。

また、当期末の株主配当は、令和4年4月に公表した配当予想に対して5円増の1株当たり70円とし、次期配当予想についても中間・期末とも1株当たり70円とすることも明らかとなった。

この経営懇談会においては、今次業績に関する会社の

見解を詳細に確認するとともに、令和5年度の事業運営の見通し等についても広範に議論を展開した。

会社からは、安全・安定輸送の確保を最優先に輸送機関としての使命を果たしつつ、コロナ禍で加速した働き方の変化、労働力人口の減少等、当社を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、ICT等の最新の技術を活用して効率的な業務執行体制を構築する「業務改革」と新しい発想による「収益の拡大」の取組みを本格化することが明らかとなった。

令和5年度は、アフターコロナ期において更なる成長を図る重要な年度となる。ユニオン組合員が引き続き一丸となって安全・安定輸送、医療の

□令和4年度期末連結決算の概要

科目	実績	前年度との差異	増減率
営業収益	14,002億円	+4,651億円	+49.7%
営業利益	3,745億円	+3,727億円	—
経常利益	3,074億円	+3,747億円	—
親会社株主に帰属する当期純利益	2,194億円	+2,713億円	—

安全を支えて経営の更なる改善を図るべく、引き続き労使で意見交換を重ね、将来宣言に基づいた労使関係をより強固なものとしていくことを相互に確認した。

2023年度新規組合員の皆さん、JR東海ユニオンへの加入を心より歓迎いたします。



尾内中央執行委員長

JR東海ユニオン結成以来、諸先輩方の弛まぬ努力の

積み重ねによって、JR東海は高いレベルでの安全・安定輸送を確立し、世の中に高く評価される鉄道会社へと進化し、賃金をはじめとする諸労働条件を大きく向上させるとともに、私たちの働き方や働く環境を改善してきました。これから先、皆さんは社会人としての一歩を踏み出し、多くの時間を会社生活に費やすこととなり、仕事を通じて良いことも困難なことも様々な経験を積まれるでしょう。皆さんが安心して、そして希望をもって会社生活が送れる

ようJR東海ユニオンがしっかりとサポートします。で、どんな些細なことでも組合役員に相談してください。先輩組合員は皆さんのことを見守っています。加えて、皆さんにはJR東海ユニオンの様々な活動を通じて、職種や系統を超えた多くの仲間とのつながりを持つことにより、会社生活を乗り多きものにしていただければと思っています。様々な機会がありますので、これから一緒に活動していきましょう！

新規組合員の皆さんの加入を歓迎します！ 尾内中央執行委員長からの歓迎メッセージ